

教科等横断的な視点を取り入れた授業実践

社会科 第5学年

《教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成》

○ 学習の基盤となる資質・能力の育成について

・問題発見・解決能力の育成

本実践では、単元を貫く学習問題を設定することにより、教科等横断的な学習に一貫性をもって取り組んでいけるようにする。そのため、学習問題を各教科・領域等における見方・考え方を意識した形で言語化し、解決する問題を明確に捉えられるようにする。また、振り返りによる次の問題発見や見通しを持つことが問題発見・解決能力を育むために効果的であると考えた。

・情報活用能力の育成

本実践では、情報を収集したり、分類したりするために学習活動を設定し、教科等横断的な学習の充実を図っていく。その手立てとして、1人1台端末を適切に活用することができるよう指導していく。

・言語能力の育成

本実践では、根拠を明確にして自分の考えを適切に表現する力の育成を図る。そのために、国語科における「ミニディベート」や「意見文」を用いて、学習したことをもとに根拠を明確にする力を養う。

1 単元名 「わたしたちの生活と食料生産：社会」

「（小単元名）食品ロスからこれからの食料生産を考えよう」

2 単元の目標

- 食料自給率や輸入など外国との関わり、食の安全・安心への取組などについて、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、調べたことを図表や文などにまとめ、食の安心・安全、持続可能な食料生産・食料確保が重要な課題であることを理解することができる。

＜知識及び技能＞

- 食品ロスや食料自給率、輸入など外国との関わり、食の安全・安心への取組などに着目して、我が国の農業や水産業における食料生産について調べ、学習問題の解決に向けて意欲的に追究しようとするとともに、消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの持続可能な食料生産のあり方について、それぞれの立場からできることを考え、表現することができる。

＜思考力、判断力、表現力等＞

- 主体的に学習課題を追究・解決しようとしたり、学習したことを基にこれからの食料生産のあり方について考えようとしたりする。

＜学びに向かう力、人間性等＞

3 教科等横断的な視点を取り入れた授業実践について

(1) 単元で育てたい力

- 自分の生活と関連付けながら、我が国の食料生産について国民の食料生産を支える重要な役割を果たしていることを自分の生活と関連づけて表現できる。【社会：言語能力】
- これからの持続可能な食料生産のあり方について、生産者や消費者などの立場からできることを、資料をもとに多角的に考え、表現することができる。【社会：問題発見・解決能力】

(2) 教科等横断的な視点に立った育てたい力

○目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別しながら話の構成を考え、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。【国語：言語能力】

○互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。【国語：言語能力】

○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

【国語：言語能力】

○食事の役割が分かり、日常の食事の大切さを見だし、持続可能な食生活の課題に気付くことができる。【家庭科：問題発見・解決能力】

(3) 共通の育てたい力

○学習問題の解決のために、図や表などの資料を収集したり、整理・分類したりして自分の考えをまとめることができる。【共通：情報活用能力】

(4) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①食料自給率や輸入など外国との関わり、多様な立場での食品ロス改善への取組などについて、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、食料生産の課題を理解している。</p> <p>②調べたことを図表や文などにまとめ、食の安全・安心の確保、持続可能な食料生産・食料確保が重要な課題であることや、食料自給率を上げることが大切であることを理解している。</p>	<p>①食料自給率や輸入など外国との関わり、多様な立場での食品ロス改善への取組などに着目して、問いを見だし、これからの食料生産について考え表現している。</p> <p>②多様な立場での食品ロス改善への取組を関連付けたり、食料生産について学習してきたことをまとめたりして、学習したことを基に、消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの食料生産の発展について考え表現している。</p>	<p>①これからの食料生産について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>②学習したことを基に、これからの持続可能な食料生産のあり方について考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。</p>

4 指導計画 (11時間扱い)

時	学習活動 ★教科等横断的な学習活動	備考 ★教科等横断的な学習 ◎記録に残す評価 □学習状況の確認
1	<p>★<u>自分たちの食生活を振り返り、豊かな食生活を送っていることを捉える。【家庭科】【見いだす】</u></p> <p>豊かな食生活と食品ロス522万トンという量の対比から、学習問題を立てた。自分達は捨てていないはずという考えから、自分達も関わっていると認識を改めていく。</p> <p>どうしてごみになってしまう食べ物が出ているのだろう。</p> <p>★<u>食品ロスの原因について調べ、食品ロスの問題点を捉える。【家庭科】【自分で取り組む】</u></p>	<p>◎主体的に学習に取り組む態度 ①【行動分析・発言分析】</p>

	<p>○食品ロスの原因について調べたことを発表し合う。【広げ深める】</p> <p>○学習問題について振り返る。【まとめあげる】</p>	<p>★食事の役割が分かり、日常の食事の大切さを見だし、持続可能な食生活の課題に気付くことができる。【問題発見・解決能力】</p>
2	<p>○ファミリーレストランの原材料表から気付いたことを話し合う。【見いだす】</p> <p>わたしたちが食べているものは、日本でどのくらい作られているのだろう。</p> <p>○食料の輸入状況や食料自給率について調べ、これからの食料生産について考える。【自分で取り組む】</p> <p>ファミリーレストランの原材料（肉類）では、国産肉が25品中1品だった。我が国の食料自給率が低いこと、輸入が止まることもありえることなどを資料から読み取った。</p> <p>○単元の学習問題を立てる。【見いだす】</p> <p>これからも食料を確保し続けるために、わたしたちはどのように取り組んでいけばよいららうか。</p> <p>○学習の計画を立てる。【見いだす】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品の輸入量を減らす・増やす。 ・食品ロスをなくしていく必要がある。 ・食料自給率を上げる。 <p>○学習問題について振り返る。【まとめあげる】</p>	<p>□主体的に学習に取り組む態度</p> <p>①【記述分析・発言分析】</p> <p>・学習したことをもとに、これからの食料生産について、予想や学習計画を立てようとしている。</p>
3 ～ 7	<p>食料の輸入について、ミニディベートで考えを広げたり深めたりしよう。</p> <p>○ミニディベートの取組方について確認する。</p> <p>★食料の輸入状況や食料自給率について調べたことをもとに、食料を輸入する利点と問題点について整理する。【国語】</p> <p>★食料を輸入する利点と問題点について話し合う。【国語】</p> <p>ディベートのテーマを「食料の輸入について」とし、輸入の利点（輸入を増やすべき）と問題点（輸入を減らすべき）の立場に立って、調べ学習に取り組み、利点と問題点を整理するとともに、根拠となる資料を作成した。意見を述べる際は資料を提示し、ディベートを行った。</p>	<p>◎思考・判断・表現</p> <p>①【発言分析・記述分析】</p> <p>★目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別しながら話の構成を考え、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。【言語能力】</p> <p>★互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。【言語能力】</p>
8	<p>○食品ロスに取り組む団体の画像資料とその取組について気付いたことを話し合う。【見いだす】</p> <p>生産者に関わる人々は、食品ロス改善のためにどのように取り組んでいるのだろう。</p>	<p>「出荷できない野菜を販売しています」と書いてある黒板の写真などを提示し、その他の情報から、規格外野菜のことではないかと予想する。</p>
	<p>○食品ロスに取り組む団体などが行っている規格外野菜の販売や地産地消の取組について調べる。【自分で取り組む】</p>	

	<p>○食品ロスに取り組む団体などが行っている食品ロス改善の取組について調べたことを発表し、取組のよさや問題点について整理する。【広げ深める】</p> <p>生産者に近い立場からの食品ロス改善の取組について、食品ロスに取り組む団体の代表に回答していただいたメールを読み、地産地消の取組が大切であることに気付く。地産地消を行動に移している人が少ないことが問題だと考えた。</p> <p>○学習問題について振り返る。【まとめあげる】</p>	<p>□知識・技能</p> <p>①【記述分析・発言分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産者の立場に立った食品ロス改善のための取組について調べ、そのよさや問題点を理解することができる。
9	<p>○ファミリーレストラン「持ち帰り用ボックス」について気付いたことを話し合う。【見いだす】</p>  <p>○学習問題について振り返る。【まとめあげる】</p>	<p>□知識・技能</p> <p>①【記述分析・発言分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○外食産業の立場から行っている食品ロス改善の取組について調べる。【自分で取り組む】 ○外食産業の立場から行っている食品ロス改善の取組について調べたことを発表し、取組のよさや問題点について整理する。【広げ深める】 <p>○外食産業における食品ロス改善のための取組について調べ、そのよさや問題点を理解することができる。</p>
10	<p>○家庭での食品ロス分類グラフについて気付いたことを話し合う。【見いだす】</p> <p>わたしたち消費者は、食品ロスを改善するためにどのように取り組んでいけばよいだろう。</p> <p>○消費者の立場から行っている食品ロス改善の取組について調べる。【自分で取り組む】</p> <p>○消費者の立場から行っている食品ロス改善の取組について調べたことを発表し、取組のよさや問題点について整理する。【広げ深める】</p> <p>消費者庁の「計ってみよう家庭での食品ロス～食品ロス削減マニュアル～」から消費者にも取り組むことができることを調べた。問題点として、取組を知らない人や意識の低い人への働きかけが必要であることに気付いた。</p> <p>○学習問題について振り返る。【まとめあげる】</p>	<p>家庭での食品ロスは「過剰除去(切り過ぎ等)」「食べ残し」「直接廃棄(消費期限切れ等)」があり、消費者の行動が改善のために必要だと考えた。</p> <p>□知識・技能</p> <p>①【記述分析・発言分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○消費者の食生活における食料自給率向上のための取組について調べ、そのよさや問題点を理解することができる。

<p>1 1</p>	<p>○学習してきたことを振り返る。【見いだす】</p> <p>これから食料を確保し続けるために、わたしたちはどのように取り組んでいけばよいだろうか。</p> <p>○さまざまな立場から行っている食料生産の取組について、図や表に整理する。【広げ深める】</p> <p>食料を確保するために学習してきた取組として、「輸入の在り方」「地産地消」「食料自給率向上」「食品ロス改善」を挙げ、これらの課題を解決するための取組について付箋に考えを記述し、黒板上で整理した。</p>	<p>◎知識・技能</p> <p>②【記述分析】</p> <p>□思考・判断・表現</p> <p>②【記述分析・発言分析】</p> <p>・多様な立場から行われている食料生産への取組を関連付けたり、食料生産について学習してきたことをまとめたりして食料生産の発展について考えることができる。</p>
<p>1 2 ～ 1 5</p>	<p>食料を確保するための取組について、自分の考えを意見文にまとめよう。</p> <p>○意見文の書き方について確認する。【見いだす】</p> <p>★学習してきたことをもとに、食料自給率を向上するための取組について、自分の考えを意見文にまとめる。【国語】</p> <p>食料を確保するための取組について、学習してきたことをもとにして自分なりによりよい取組を意見文として文章にまとめた。</p> <p>食料を確保するための取組について、自分の考えを発表しよう。</p> <p>★これからも食料を確保し続けるための取組について、根拠を明確にして発表する。【国語】</p> <p>○友達の発表を聞いて、学習問題について振り返る。【まとめあげる】</p>	<p>◎主体的に学習に取り組む態度</p> <p>②【行動分析・発言分析】</p> <p>□思考・判断・表現</p> <p>②【記述分析・発言分析】</p> <p>・学習したことを基に、これからの食料生産の在り方について、自分の考えを適切に表現している。</p> <p>★目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。【言語能力】</p>

5 実践

(1) 目指す児童の姿

・学習の基盤となる資質・能力育成について

ア 問題発見・解決能力の育成①（第1時）【家庭科】

(ア) 児童を見取る際の主なポイント

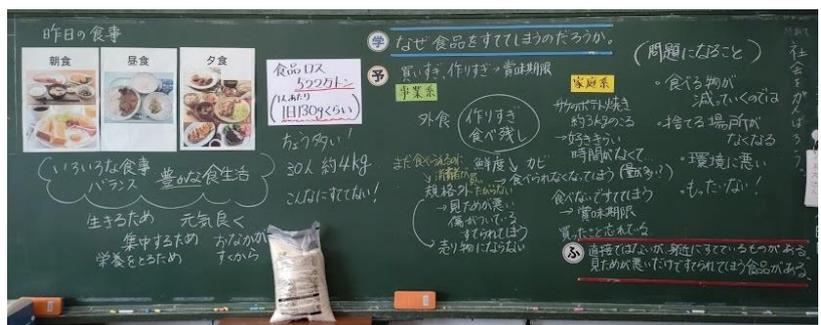
主に、授業中の発言やノート記述内容から評価した。

- ・昨日の食生活を振り返り、私たちは豊かな食生活を送っていることに気付いている。
- ・食品ロスの現状から問題を見だし、食品ロスの原因について調べようとしている。
- ・食品ロスが続くことによる課題を見いだしている。

(イ) 指導と評価の実際

① 第1時の授業の概要

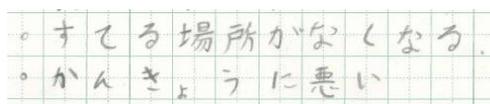
豊かな食生活を送っていることを昨日の食事を思い出し確認する。一方、食品ロスが年間522万トンという現実を知り、食品ロスの原因について学習問題を見いだす。食品ロス



の原因について、資料から調べ、食品ロスが続くことによる課題や問題点に気付く。

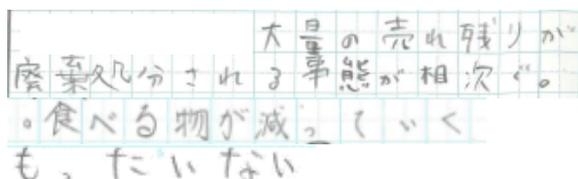
②実際の児童の姿

○「おおむね満足できる」状況と評価した例



食品ロスが続くことによる課題や問題点を見いだし、判断できる記述が見られるものは「おおむね満足できる」状況と評価した。

○「十分満足できる」状況と評価した例



食品ロスの原因について資料から調べられているとともに、調べたことをもとに食品ロスが続くことによる課題や問題点を見いだし、判断できる記述が見られるものは「十分満足できる」状況と評価した。

○「努力を要する」状況と評価した例

食品ロスの原因について資料から調べられているが、食品ロスが続くことによる課題が見いだされていないものは「努力を要する」状況と評価した。当該児童には、食品ロスが続くことによる課題を資料にある食品ロスの原因の一例を提示し、これが続くことでどんなことが起きるかを考えるよう助言し、記述させた。

イ 問題発見・解決能力の育成②（第11時）【社会】

(ア) 児童を見取る際の主なポイント

- ・学習したことをもとに、これからも食料を確保するために「輸入の在り方」「食品ロス改善」「地産地消」「食料自給率向上」への有効な取り組みを考えることができる。
- ・生産者や消費者などの立場を明確にして具体的な取り組みについて説明することができる。

主に、付箋に記述した内容や授業中の発言内容から評価した。

(イ) 指導と評価の実際

①第11時の授業の概要

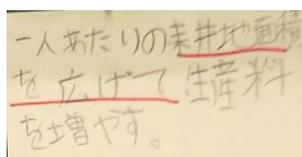
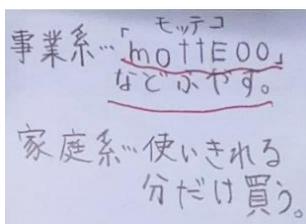
生産者や消費者などの取組を共感的に捉え、様々な立場からこれからも食料を確保するための取組について考えた。持続可能性や効率、公正といった視点をも



って、食料生産の課題を解決しようとする人々の努力や工夫について捉られるように掲示物などで学習を振り返った。我が国の食料生産について、付箋に記入した取組を整理・分類して、実現可能性や有効性に着目して質疑応答を交えながら意見を述べさせた。

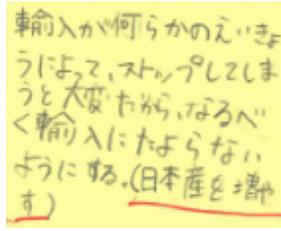
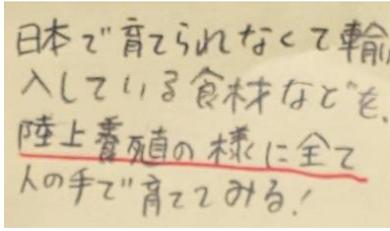
②実際の児童の姿

○「おおむね満足できる」状況と評価した例



これからも食料を確保し続けるためという目的を明確にして、学習した消費者や生産者などの取組から選択しているとともに、実現可能なものや、有効であるものとして自分なりの考えが記述されており、授業中の発言で具体的に説明ができていると判断できるものは「おおむね満足できる」状況と評価した。

○「十分満足できる」状況と評価した例



学習した消費者や生産者などの取組の中から、その取組のよさや問題点について理解し、これからも食料を確保するための取組が実現可能であるものや、有効であるものとして自分なりの考えが記述されていたり、授業中の発言から具体的な取組について説明ができていたりすると判断できるものは「十分満足できる」状況と評価した。

○「努力を要する」状況と評価した例

記述内容に学習したことをもとにした記述が見られないものは「努力を要する」状況と評価した。当該児童には、学習した内容の中から、自分にも取り組めそうなものを選択するよう助言し、記述させた。

ウ 情報活用能力の育成①（第8時）【社会】

(ア) 児童を見取る際の主なポイント

- ・ 地産地消について図や表などの資料を収集することができる。
- ・ 収集した情報を取組のよさや問題点に着目して整理・分類することができる。

主に、ノートの記述内容や授業中の発言内容から評価した。

(イ) 指導と評価の実際

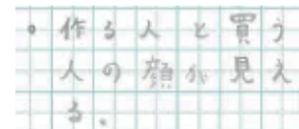
①第8時の授業の概要

規格外野菜の販売例を取り上げ、代表からいただいたメールから地産地消の取組について調べ、友達と情報や意見を共有する場を設定した。取組のよさや問題点を整理したり、深めたりできるようにした。

②実際の児童の姿

○「おおむね満足できる」状況と評価した例

提示した資料から地産地消のよさや問題点について調べたことをノートに記述できていると判断できるものは「おおむね満足できる」状況と評価した。



○「十分満足できる」状況と評価した例

提示した資料から地産地消の良さや問題点について調べたことの他に、各種資料から調べたことをもとに考えたよさや問題点についてノートに記述できていると判断できるものは「十分満足できる」状況と評価した。



○「努力を要する」状況と評価した例

地産地消の良さや問題点について調べたことをノートに記述できていないと判断できるものは「努力を要する」状況と評価した。当該児童には、提示した資料の中から、よさと感じるものを書き写すよう助言し、記述させた。

エ 言語能力の育成①（第7時）【国語】

(ア) 児童を見取る際の主なポイント

主に、ミニディベートでの発言や振り返りシートの記述内容から評価した。

(イ) 指導と評価の実際

①第12～15時の授業の概要

意見文の書き方を確認し、これからも食料を確保し続けるための取組について自分の考えをまとめる。これからも食料を確保し続けるための取組について書き上げた意見文をグループで発表し、記述を加除修正し、完成させる。

②実際の児童の姿

○「おおむね満足できる」状況と評価した例

学習したことをもとにした事実と感想、意見とを区別して書いていると判断できるものは「おおむね満足できる」状況と評価した。

この意見文は、教師見本をもとに記述していて、事実と感想、意見とを区別して書いており、「おおむね満足できる」内容となっている。しかし、下線部にあるように、根拠となる事実と具体性が乏しく、事実と意見のつながりが弱いと判断した。

私は、これからも食料を確保し続けるために、規格外野菜を食べる、家族でできることに取り組むことが必要だと考える。一つ目の理由は、規格外野菜は、捨てられてしまうからだ。規格外野菜は、品質には問題がないのだから。二つ目の理由は、家族でできるだけ消費期限が近いものから食べて家にあるものから食べたりすることが大事だと思つたことである。一人一人の取り組みの結果が食品ロスを改善するのではないだろうか。食品ロスの量を考えると、一人の努力では効果が小さいという考えもあるだろう。しかし、家庭から出ている食品ロスを少なくするように意識して食料を大切にしていけることが食料自給率の向上につながるのではないだろうか。以上のことから、私は、これからも国内の食料生産に関心を持ち続け、食品ロスをなくしていきたいと考える。

○「十分満足できる」状況と評価した例

学習したことをもとにした事実と感想、意見とを区別して書いており、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫していると判断できるものは「十分満足できる」状況と評価した。

私はこれからも食料を確保し続けるために、規格外野菜をスーパーや市場にも売り、私達はその規格外野菜を買い取ると考える。そう考える理由の一つ目は、食品ロスに取り組む団体など地産地消を行動にうつしている人は少ないからだ。捨てるられる食料が減り、食品ロス改善になる。地産地消を行動にうつしている人は少ないが、スーパーなどでも見た目に関係なく食料を売り出せば、食品ロスがもつと減るはずだ。二つ目の理由は、規格外野菜は、農業をあまり使わないものが多いため、安心・安全で買うことができることだ。安心・安全な野菜をみんなも買いたいと思つているのではないだろうか。形が変わつていたり、傷がついていたりする野菜を食べたくない、買いたくないという考え方もあるだろう。しかし、これからも農薬の少ない体に良い野菜を食べていくために、スーパーにも規格外野菜があれば、みんなが買って来て、食料の生産が向上するのではないだろうか。以上のことから、私はスーパーや市場に規格外野菜を売り出し、その野菜を買うということを行っていきたいと考える。

この意見文は、事実と感想、意見とを区別して書いているとともに、根拠となる事実と意見がしっかりとつながっているため「十分満足できる」内容となっている。下線部は既習の内容をもとにしている。生産者の立場でも、消費者の立場でも地産地消を広げるために具体的な行動のあり方について記述している。

○「努力を要する」状況と評価した例

学習したことをもとにした事実と感想、意見とを区別して書けていないと判断できるものは「努力を要する」状況と評価した。当該児童には、学習した内容を提示し、自分にも取り組みそうなものを事実として書くよう助言し、記述させた。

(2) 実践を終えて

1 学習の基盤となる資質・能力育成について

・問題発見・解決能力の育成

本実践では、大量の食品ロス、低い食料自給率という事実を資料から読み取らせることで持続可能な食料生産への危機感を高めるとともに、食品の輸入が滞った事例を提示することで、問題を見いだすことができた。まず、問題を解決するための学習計画についても資料をもとに輸入のあり方、食品ロス改善への取組、食料自給率向上への取組などの発言や記述が見られた。次に、学習問題を各教科・領域における見方・考え方を意識した形で言語化することで、問題について解決する際の視点や方法を明確に捉えることができた。そして、振り返りによる次時の問題発見や解決への見通しを持つことにつながり、学級内で共有することで、問題に気付くことができる児童が増えた。

・情報活用能力の育成

本実践では、情報を収集したり、分類したりするために、取組のよさや問題点を明らかにするという活動を多く設定した。そのため、提示する資料から取組のよさや問題点と考えた文章やイラストに囲み線などをつけたり、1人1台端末を活用して調べ学習に取り組めるように着目するキーワードを考える時間を設定したりした。例えば、食料輸入について調べるときは、「食料輸入」と検索するだけでなく、「食料輸入品の値段」などと検索すれば情報を収集できそうだと見通しを持たせることである。このような手立てで情報を収集したり、分類したりする力を育成することができた。

・言語能力の育成

本実践では、主に国語科における「ミニディベート」や「意見文」を用いて、根拠を明確にした自分の考えを適切に表現する力の育成することができた。学習したことをもとに根拠を明確にできるように学級で共有した取組のよさや問題点が捉えられるようまとめたものを掲示した。また、「ミニディベート」では、ディベート用メモを用意し、メモの書き方を指導した。「意見文」では、教師見本を作成し、低学力層への手立てとした。

しかし、社会科授業の構成要素として1単位時間の「まとめ」や「振り返り」を自分の言葉で記述させることや、調べたことを要約したり、根拠となる情報を書き出したりすることも言語能力の育成に寄与する学習活動である。単元を通して言語能力を育成していくことが重要である。

本実践を通して、社会科を軸とし、家庭科や国語科などで教科等を横断した学習計画を立てた。単元の目標から、単元終末における児童の姿をどのように設定するかによって、学習計画の描き方は大きく異なる。しかし、学習の基盤となる資質・能力の育成については、単元だけでなく、年間で計画的に、系統的に育成していくことが望ましいと感じた。

2 教科等横断的な視点に立った評価について

本実践では、社会科・国語科・家庭科の内容を扱った。教科等横断的な視点に立って評価をするに当たり、問題発見・解決能力について評価する際、主に、社会科・家庭科の内容で、評価の観点は思考・判断・表現と主体的に学習に取り組む態度にまたがる。また、情報活用能力について評価する際、主に社会科の内容で、評価の観点は知識・技能の技能面の要素が大きい。しかし、技能の向上は知識の定着にもつながることから、授業毎の学習のまとめの内容にも着目する必要がある。さらに、言語能力について評価する際、主に国語科で、評価の観点は思考・判断・表現であった。

内容が横断的になることで、社会科のみの学習よりも児童の知識や思考の幅が広がり、働かせている見方・考え方も多岐に渡った。教科等横断的な視点に立った評価として、より一層各教科・領域等で育む資質・能力について十分に精査するとともに、各教科・領域の学習指導要領の目標や内容に沿って、具体的な評価規準を作成していくという当たり前のことが今まで以上に求められると強く感じる。この評価規準をもとにして単元構成や学習活動の設定を吟味することで、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が図れると実感した。